



介護交流セミナー開催される

121名の参加者で大成功

9月17日、医王養護学校の体育館で「守る会」主催の介護交流セミナーが開催されました。前日まで残暑が厳しく参加者の体調が心配されましたが、当日は暑さも少し和らぎ係一同ほっと胸をなでおろしました。9時過ぎにはボランティアの学生さんや各業者の方々、当日の係の人々が揃い開会の準備が進められました。参加者の方々もそれぞれ病院や自宅から集まってこられ、全体で121名の参加となりました。

開会式の後各分野から御呼びした4人のパネラーによるシンポジウムが始められました。平行してサンルームでは重症児(者)の方々のレスパイト事業、ハートポッポも行なわれました。

《シンポジウムの概要》

◆ パネラーの提案要旨

石川県保健福祉部障害保健福祉課知的障害福祉係長 橋本 潔 さん

- ・重症児(者)が豊かな生活をするには、社会保障が充実することが必要である。
- ・社会福祉基礎構造改革によって、福祉制度のあり方、利用者の意識が大きく変わってくる。例えば、平等から公平化へ、行政処分から契約へ、そして保護から自立へと変わってくる。
- ・障害者やその家族は、今までとは意識を変えて上手に使い分けをして利用してほしい。

社会福祉士 西脇 瑞枝 さん

- ・重症児(者)の豊かな生活は、その人が望む生き方を周囲の人々が支えていくことで実現できる。
- ・家族全員で支え合う中で、その子を要として絆を作っていくことが大切である。
- ・施設の役割も大きい。安心して預けることができるように親も子も慣れていくことも大切である。また、施設側もどんなケアやサービスをしているか公開し、ニーズをキャッチする努力が必要である。

石川病院小児科医師 滝沢 昇 さん

- ・医学的に見て、大変重症で問題を多く抱えていても、その子の置かれたよい環境(多くの人とのかかわりの中)で、表情豊かに生活しているケースも見かける。



作業療法士 竹内華子さん

- ・障害のある人やその家族の心理心情生活を理解し、協力してくれる人を増やすことが大切である。
- ・適度な無理（好むことばかりするのではなく、少し抵抗があること）もしながら、楽しい生活を送ることが豊かな生活につながるのではないか。
- ・心と体のバランスをとることが大切である。
- ・いろいろな悩みもあるだろうが、気持ちの持ちようですぐいぶん違ってくると思う

◆質疑・応答

Q大阪の養護学校では、理学療法士や作業療法士の資格をもった教諭が1～2名必ずいるそうです。石川県にはいないが富山県ではどうですか。我が子は小学4年ごろから側湾が急激に進み、今では呼吸にも問題がおきています。毎日家で頑張っているお母さんもありますが、全ての関節を動かすことは無理です。できないところを補って指導して頂ければと思っています。是非、OT、PTの資格をもった先生の配置をお願いします。

A富山県にはいません。大阪では学校のOT、PTと各病院のOT、PTとの連携が密にとれてうまくいっている。それで体の変形が止められたり遅くなったりでき、効果も大きいように思う。
体の変形は、その時々薬の変更や成長期で急激にくることもある。

Q福祉基礎構造改革で、措置から契約へということであるが、在宅通所の者にとっては、契約する相手そのそものが不足している。そこで、親たちが集まって施設を作ろうとしているが、福祉法人の規制が緩和されたと聞いているがどの程度なのですか。

Aこれからは在宅の時代だと思う。県としても、障害者プランの見直しの時期を迎えている。法人は資本金1100万円か、それに見合う土地があれば誰でも作ることができる。実績は5年あればよい。児童福祉は県であるが、通所施設づくりは市町村に相談すればよい。

Q入院や入所している人も同じ場所にいるだけでなく、他の通所場所に通うことで豊かな生活をおくることができると思います。そこで、入院・入所している人が通所場所に通うことができるのか、現行ではできないとすれば、何かできるような方策をとれないか。

A措置制度の関係で難しい



シンポジウムでは時間のない中パネラーの方々のお話もわかりやすく、質問にもていねいに答えていただき、参加されたみなさんも熱心に聞いておられました。

超満員だったハートポッポ

シンポジウムと平行して医王養護学校のサンルームでハートポッポが行なわれました。当日は何人の利用があるか見当もつかない中、朝から学生ボランティアさんもたくさん来てくださり、楽器や風船やパラバルーンなども用意しました。

父母の方はシンポジウムに、子どもはハートポッポにとわかれて参加される方も多く、サンルームは見ている間に満員になりました。

いつものように「ふれあい体操」から始めたのですが、みんなの大好きなシーツブランコは5回りもするなどスタッフのみなさんは汗だくでした。

それでもいつも参加している子どもはもちろん入所のみなさんもととてもいい笑顔でうれしそうでした。その後は楽しい音楽や歌に合わせて、それぞれ好きな楽器を選んであそびました。元気にマラカスをふる人やメロディベルのきれいな音をじっと聞いている人や学生さんといっしょに楽しそうに鈴をふっている人など一人一人が自分なりに楽しめたようでした。この頃になると初めての場所や大勢の人にびっくりして不安そうな顔をしていた人たちの表情もほころんできました。

最後に風船をたくさんおせてパラバルーンであそびました。大きなパラバルーンからおくられてくる風を感じたり、風船のソフトな感触を頬に感じたりとゆったり楽しみました。在宅の人も入所の人も学生さんもボランティアの人もみんなで楽しい時間を過ごすことができました。



楽しい交流もできました！

午後からは体育館やサンルームのあちこちで、好きなお弁当を食べながら話合っているグループもいくつか見られました。

外にはマツダオートさんから福祉車両も展示していただきました。車椅子ごと試乗したり、販売員の方に相談にのってもらったりもできました。

こもればさんからは医療ベッドをはじめ、食事用具や入浴用具などを、つくし工房さんからは車椅子、バギー車、座位保持装置などを展示していただきました。

また、シンポジウムのパネラーでもある西脇さん、竹内さんによる療育相談も行なわれました。

参加者のみなさんはそれぞれの品物を見て回ったり、相談を受けたり、おしゃべりをしたりと思い思いに過ごされていました。

最後に体育館でみんなでパラバルーンあそびをしてセミナーを閉じました。

後片付けには参加者、ボランティアさん含めてみんなでとりかかりました。体育館のモップがけもしてきれいになったところで記念撮影をしました。子ども達も1日の活動だったにもかかわらず、にこやかな笑顔で写真におさまっていました。



介護交流セミナーに参加されたみなさんへ

初めての試みだったのに多くのみなさんに集まっていただきありがとうございました。心より感謝いたします。

ご協力頂いたパネラーの方々、業者のみなさんありがとうございました。

ご意見、ご感想などありましたらお聞かせいただければ幸いです。

これを機会に今後とも「守る会」の活動をご理解いただくようよろしくお願いいたします。

尚、会場にて募金にもご協力いただき、1万余円集まりました。ありがとうございました。会の運営や行事に使わせていただきたいと思います。

お知らせ

平成13年1月21日午後（予定）

今、みなさんの関心のある成年後見制度についての学習会をしたいと思います。



会員の現況

新入会員

全国守る会・石川守る会 正会員
鶴見さん、東さん、近藤さん

正会員 入所 44名

在宅 19名

賛助会員 29名

合 計 92名

表6 成年後見制度の概要（イメージ）

